

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 10 月 8 日 (2020.10.8)

【公表番号】特表 2019-529391 (P2019-529391A)

【公表日】令和 1 年 10 月 17 日 (2019.10.17)

【年通号数】公開・登録公報 2019-042

【出願番号】特願 2019-512832 (P2019-512832)

【国際特許分類】

A 0 1 N 43/40 (2006.01)

A 0 1 P 5/00 (2006.01)

A 0 1 N 25/04 (2006.01)

A 0 1 N 25/30 (2006.01)

A 0 1 M 1/20 (2006.01)

【F I】

A 0 1 N 43/40 1 0 1 A

A 0 1 P 5/00

A 0 1 N 25/04 1 0 2

A 0 1 N 25/30

A 0 1 M 1/20 A

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 8 月 28 日 (2020.8.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

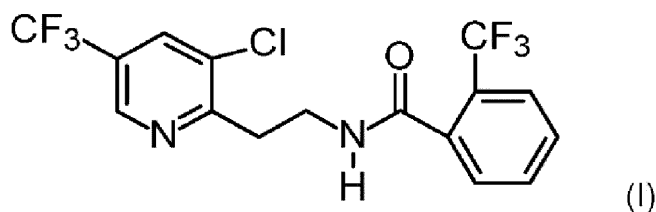
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

懸濁濃縮液製剤であって、式 (I)

【化 1】

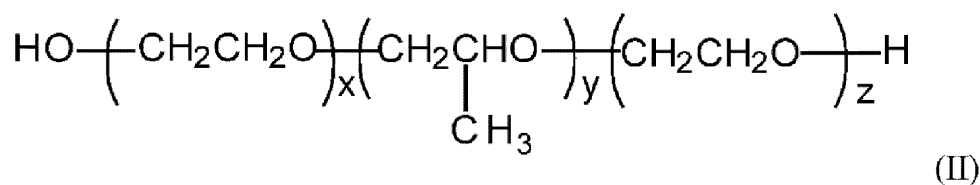


で表される化合物〔ここで、化合物 (I) は、5.0 μm 未満の粒径 D_v90 を有する〕

；及び、

(b) 式 (II)

【化 2】



〔ここで、式 (I I) で表される化合物において、

x、z は、2 ~ 140 であり；及び、

y は、15 ~ 80 である〕

で表される少なくとも 1 種類のポリアルキレンオキシドブロックコポリマー；
の組み合わせを含んでいる、前記懸濁濃縮液製剤。

【請求項 2】

化合物 (I) が、1.0 μm ~ 5.0 μm の粒径 (D_{v90}) を有することを特徴とする、請求項 1 に記載の懸濁濃縮液製剤。

【請求項 3】

式 (I I) で表される化合物が、7,000 ~ 18,000 g/mol の分子量を有することを特徴とする、請求項 1 に記載の懸濁濃縮液製剤。

【請求項 4】

式 (I I) で表される化合物が、50 ~ 85 % のエチレンオキシド含有量を有することを特徴とする、請求項 1 に記載の懸濁濃縮液製剤。

【請求項 5】

前記製剤が、

(c) 1 種類以上の非イオン性の界面活性剤若しくは分散助剤、及び / 又は、少なくとも 1 種類のアニオン性の界面活性剤若しくは分散助剤；

(d) 1 種類以上のレオロジー改質剤；及び、

(e) 消泡剤、殺生剤、不凍剤、着色剤、pH 調節剤、緩衝剤、安定剤、結晶成長阻害剤又は微量栄養素を含む群から選択される 1 種類以上の別の製剤助剤；

を含んでいることを特徴とする、請求項 1 に記載の懸濁濃縮液製剤。

【請求項 6】

1 ~ 800 g/L の成分 (a) を含んでいる、請求項 1 に記載の懸濁濃縮液製剤。

【請求項 7】

30 ~ 500 g/L (好ましくは、35 ~ 200 g/L) の成分 (b) を含んでいる、請求項 1 に記載の懸濁濃縮液製剤。

【請求項 8】

1 ~ 800 g/L (好ましくは、5 ~ 500 g/L) の成分 (c) を含んでいる、請求項 1 に記載の懸濁濃縮液製剤。

【請求項 9】

請求項 1 又は 5 に記載の製剤を調製する方法であって、

- 第 1 段階において、約 100 ~ 250 g/L の水の一部分、レオロジー改質剤 (d)、殺生剤 (e)、5 ~ 40 g/L のコポリマー (b) を除く全てのコポリマー (b) 及び約 0.5 ~ 3 g/L の消泡剤の一部分を混合させることによって、増粘剤ゲルを調製し；

- 第 2 段階において、残りの水の中で成分 (d)、成分 (e) 及び 5 ~ 40 g/L の成分 (b) を混合させることによって、プレミルスラリーを調製し；

- 第 3 段階において、前記プレミルスラリーに成分 (a) を添加し、そして、成分 (a) の粒径が 50 μm 未満になるまでローターステーターミキサーを用いて混合させ；及び、

- 第 4 段階において、前記プレミルスラリーを、0.3 ~ 0.75 mm のビーズサイズを有する粉碎媒体 (g) を含んでいるビーズミルの中で粉碎し；及び、

- 第 5 段階において、混合しながら、第 1 段階で調製した前記増粘剤ゲルを添加する；

前記調製方法。

【請求項 10】

前記粉碎媒体 (g) が、ガラス、Zr ドープガラス、セラミック、Zr シリケート、ZrO₂ (Y₂O₃ で安定化)、ZrO₂ (CeO₂ で安定化)、ポリマー、架橋ポリスチ

レン又はスチールの群から選択されることを特徴とする、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 1 1】

作物保護において線虫類を防除するために、請求項 1 に記載の懸濁濃縮液製剤を土壌又は植物に施用することを含んでいる方法。

【請求項 1 2】

殺線虫剤としての、請求項 1 に記載の懸濁濃縮液製剤の使用。